

ZSSSK

生活科・総合教育だより

全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会会報

全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会

事務局 東京都武蔵野市立境南小学校

〒180-0023 東京都武蔵野市境南町 2-27-27

TEL 0422-32-3400

発行人 宮崎 倉太郎

編集人 小高 和子

学習指導要領及び中教審の趣旨を踏まえ、

新たなツールも活用して生活・総合の充実を

全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会

会長 宮崎 倉太郎

(東京都武蔵野市立境南小学校長)

昨年度に引き続き、本協議会の会長を務めさせていただくこととなりました。生活科・総合的な学習の時間の更なる充実・発展のために全国の先生方と共に努力してまいります。どうか、よろしく願いいたします。

思えば、今次学習指導要領が平成29年3月に告示されてこの4月で6年、いわゆる「全面实施」からは3年が経過しました。

この間、新型コロナウイルス感染症という世界的な脅威の影響により、各学校では、児童の安心・安全を最優先にして教育活動を進めてきました。その一方で、学習指導要領の趣旨を生かした教育の「質の充実」については、どうでしょうか。

学習指導要領解説では、生活科においては、「学校、家庭及び地域の生活に関わることを通して、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりについて考えることができ…」と、また、総合においては、「自然体験やボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論などの学習活動積極的に取り入れる」と示されるなど、多様な対象と実際に関わることを通して学ぶことが重視されています。それだけに、人との接触が制限される中での生活・総合の質の成実は難しい面があったことと思います。

一方で、コロナ禍を経て格段に充実したICT環境を活用することで、これまでにはできなかった学習スタイルが可能になった面もあります。教室にいなが様々な人と画面を通して交流することで、感染リスクを低減しつつ多様な人との関わりをもつこともできるようになりました。また、学校の授業で話題になったことを帰宅してから調べる児童が表れ、さらにそれをICT端末の活用により共有する姿も見られるようになりました。このように、ICTは、児童一人一人の興味・関心に応じて調べたり、同じテーマを追究する仲間と意見を交換したり、自分たちの考えをより相手意識をもって効果的に伝えたり、学びを自己調整したりする上で極めて有効なツールであり、生活科や総合的な学習の時間の中でまさに「活用」しがいのあるものであると実感しています。

なお、いわば「直接的な体験」を通した学びと「ICTを活用した間接体験や情報の共有等」による学びは、「二項対立」の関係ではなく、学習の対象や状況に応じて組み合わせたり選択したりすることで、学習スタイルのバリエーションが児童にとっても教師にとっても大きく広がり、ひいては、学習指導要領や中教審答申の趣旨を生かした教育の「質の充実」にもつながるということを確認したいと思います。

こうしたICTの活用についても、各地区・学校での取扱いルールや指導する教師の意欲やスキルによって、その充実度には相当な差があると実感しています。確かに、児童が活用する自由度を高めれば、その状況の全てを教員が把握することは難しくなりますし、ICT活用において起こる人間関係のトラブルもあるでしょう。しかし、情報活用能力の育成が重視され、児童が将来にわたって「いつでもどこでも」ICT機器を使う未来が見えている以上、トラブルについては早期発見・対応に努め、教師と児童・保護者で課題を共有しつつ、より自由かつ積極的な活用を図ることでデジタル・シティズンシップの観点も含めた教育的意義を、児童及び私たち教師が実践を通して実感し、そのことを保護者・地域に発信し続けることが大切ではないかと考えます。

そして、11月10日(木)・11日(金)には、本年度の全国大会(東京大会)が行われます。現時点では、2日間とも、会場での参加とオンラインでのハイブリッド方式で実施する予定になっています。いわゆる「第7波」が猛威を振るっている状況ではありますが、大会実行委員長の景山与賜也校長先生、事務局長の八木慎一校長先生をはじめとする東京都の役員を中心に運営面の準備を進めるとともに、4つの授業会場校においても当日の授業に向けた準備をいただいているところです。全国の皆様には、ぜひとも直接会場にお越しいただき、生活科・総合的な学習の時間の「今」を共有し、学びを深めていただければ願っています。

また、1日目の全体会では、上智大学の奈須正裕先生と國學院大学の田村学先生に東京都の現場の先生を加え、本会の前会長である齋藤等先生にコーディネート役をお願いしてシンポジウムを行うとともに、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官の齋藤博伸先生からご講演をいただきます。現地で、また、オンラインで多くの先生方とお会いできることを楽しみにしております。

明けない夜はない！集まろう 首都東京へ！

第31回 全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会

第24回 関東地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会

Welcome to
TOKYO 2022

令和4年11月10日（木）・11日（金）

東京大会

大会主題

新たな価値の創造 ～深い学びの実現を目指して～

大会コンセプト

10年ぶり
4度目の開催

新学習指導要領の趣旨を踏まえ、新型コロナウイルス感染症流行に象徴される先が予測しにくい現在において、未来に希望をもち、困難に立ち向かうためには、これまでとは違ったものの見方や考え方をしながら、新たな価値や意味を見出すことが必要になってくると考えています。世の中の変化に合わせ、主体的・対話的に学び、価値や意味を更新していきながら深い学びをする子どもたちの育成を目指しています。

【第1日】 11月10日（木）

新宿区 四谷区民ホール （四谷区民センター9階）

13:00～
開会行事



四谷区民センター

13:30～15:00
基調提案
シンポジウム



四谷区民ホール

15:15～16:15
記念講演

対面＆オンライン
ハイブリッド開催

来賓 文部科学省教科調査官
東京都教職員研修センター企画部長
全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会顧問

テーマ「新たな価値の創造～深い学びの実現を目指して～」
シンポジスト

田村 学先生（國學院大學教授・元文部科学省視学官）
奈須 正裕先生（上智大学教授）他

深い学びで子どもたちの姿はどう変わっていくか、その実現のための教師の役割について、東京都の生活科・総合的な学習の時間の研究に深くかかわってくださって頂いた田村先生、奈須先生に様々な見地から語ってもらうとともに、実践現場の教員の方に児童の具体的な学びの姿などを語ってもらいます。

演題「予測困難な未来を切り拓く

新たな生活科・総合的な学習の時間はこう創る」

講師は、文部科学省教科調査官 齋藤 博伸先生です。齋藤先生には、2年間東京都小学校生活科・総合的な学習教育研究会の研究にご指導頂きました。新型コロナウイルス感染症流行に象徴される未来が予測困難な現在において、主体的・対話的に学び、価値や意味を更新していきながら深い学びをするこれからの生活科・総合的な学習の時間のあり方についてご講演いただく予定です。

【第2日】 11月11日（金）

○新宿区立落合第三小学校

○大田区立道塚小学校

○世田谷区立世田谷小学校

○練馬区立開進第三小学校

午前

対面＆オンライン ハイブリッド開催

【公開授業・授業協議】

○新宿区立落合第三小学校



○大田区立道塚小学校



学習指導要領で言われている、主体的、対話的で深い学びの実現を目指して、各学校とも学校をあげて取り組んでいます。「本物・本気・本音で学ぶ子どもの姿」を全国からの参加者に見ていただきます。公開授業は、午前中2時間全クラス授業公開します。（一部の授業はライブ配信）

○世田谷区立世田谷小学校



○練馬区立開進第三小学校



午後

13:15～15:05

課題別分科会

対面＆オンライン
ハイブリッド開催

15:15～16:30

指導・講評
閉会行事

課題別分科会は、生活科、総合的な学習の時間それぞれ「学習過程」、「表現」、「関わり」の3つの視点から、全国からの優れた実践報告をもとに協議します。（4会場で19分科会）東京都からも東京都小学校生活科・総合的な学習教育研究会を構成する下記の7つの分科会が報告をします。

東京A分科会（生活）「深い学びを実現するための環境構成とカリキュラム・デザイン」

東京B分科会（生活）「人との関わりを通して、新たな気づきを生み出す指導の工夫」

東京C分科会（生活）「生活科の深い学びを支える表現活動の工夫」

東京D分科会（総合）「質の高い課題更新から始まる深い学び」

東京E分科会（総合）「学習活動の振り返りと指導の工夫」

東京F分科会（総合）「子どもの学びの必然性から生まれる多様な表現活動」

東京G分科会（生活・総合）「その時子供が動いた 生活科・総合的な学習の単元」

大会申込は、「全小生総研ホームページ」からできます。
申込期間は、9月中旬から10月20日まで（予定）

東京でみんなで
会いましょう！

令和4年度
全国小学校生活科・総合的な学習
教育研究協議会役員名簿



宮崎
会長

<顧問>

増田 和彦（元全小生研会長）
會田 満（元全小生研会長）
松村 昌俊（元全小生研会長）
万代る里子（元全小生研会長）
船田 信昭（元全小生・総研会長）
寺崎 千秋（元全小生・総研会長）
和田 信行（元全小生・総研会長）
浅田 学（元全小生・総研会長）
井出 政廣（元全小生・総研会長）
清水 一豊（元全小生・総研会長）
茂木 三枝（元全小生・総研会長）
相川 哲也（元全小生・総研会長）
齊藤 純（元全小生・総研会長）
水谷 光一（元全小生・総研会長）
齋藤 等（元全小生・総研会長）
宮崎倉太郎（東京・武蔵野市立境南小）

<会長>

<副会長>

北海道ブロック 熊谷雅史（北海道・札幌市立新琴似緑小）
東北ブロック 佐藤 健（秋田・にかほ市立象潟小）
関東ブロック 糸井 広江（群馬・桐生市立天沼小）
東京ブロック 景山与賜也（東京・葛飾区立北野小）
東海・北陸ブロック 未 定
名古屋ブロック 川瀬 敏裕（愛知・名古屋市立露橋小）
近畿・大阪ブロック 鈴木登美代（京都・京都市立御所南小）
中国ブロック 松島真理子（広島・広島市立向洋新町小）
四国ブロック 佐々木 誠（香川・高松市立大野小）
九州ブロック 池田 由美（熊本・熊本市立日吉東小）

<事務局>

事務局長 八木 慎一（青梅市立第三小）
TEL 0428-31-7266 FAX 0428-32-7024
庶務 清水 仁（新宿区立落合第三小）
TEL 03-3565-0941 FAX 03-3565-0976
庶務 副 中村 泰之（世田谷区立桜町小）
TEL 03-3703-0161 FAX 03-3703-0166
広報 小高 和子（葛飾区立宝木塚小）
TEL 03-3693-4788 FAX 03-5698-1737
会計 富田恵美子（稲城市立稲城第七小）
TEL 042-377-0351 FAX 042-379-3657
会計監査 野尻 史子（北区立岩淵小）
TEL 03-3901-2950 FAX 03-3901-2878

分担金納入のお願い

理事の皆様には、お元気でご活躍のことと存じます。

さて、本会は、各都道府県・自治体の研究会からの分担金により、全国大会の補助金（25万円）、生活科・総合教育だよりの年2回の発行（ホームページ掲載により、印刷配布は1回）、理事会開催等に関する経費を賄っております。

各研究会におかれましては、様々な事情があると存じますが、是非ともお早目の分担金納入に格段の御配慮を賜り、下記までお振り込みくださいますようお願い申し上げます。

記

郵便局 記号 10010
番号 89682811
名称 全国小学校生活科・総合的な学習
教育研究協議会
(問い合わせ) 担当 富田恵美子

なお、分担金は一口1万円以上です。

全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会
ホームページURL
<http://www.zenseisouken.net>